

重点プロジェクト (2) 環境にやさしい農業推進プロジェクト

【ねらい】

◇信州の環境にやさしい農産物認証制度への取組を「点」から「面」へ拡大するため、環境にやさしい農業技術を実証・普及するとともに、農産物の販売促進に取り組み、「信州の環境にやさしい農産物」の生産拡大を図ります。

目標指標	H22 基準年	H26 実績	H29 目標年
認証取組団体数	69 団体	57 団体	100 団体

<施策の取組状況>

① 環境にやさしい農業技術集及び事例集の作成と周知

- 新たに環境にやさしい農業に取り組む生産者の参考とするため、信州の環境にやさしい農産物認証を取得して栽培している生産者の事例集を作成して活用しました。

② 信州の環境にやさしい農産物認証制度の取組の面的な拡大

○ 取組品目、実践組織の決定と削減目標の設定

- 生産者団体のほ場を対象に、農業改良普及センター、J A等の関係機関が連携して、環境にやさしい農業技術現地実証ほを13品目20箇所設置しました。
- 平成26年度 環境にやさしい農業技術現地実証ほの設置箇所

作目	実施期間		計
	H25～H27まで	H26～H28まで	
水 稻	7ヶ所	1ヶ所	8ヶ所
野 菜	3ヶ所 レタス、チンゲンサイ、 カラピーマン	6ヶ所 キャベツ、ズッキーニ、ブロッコリー、 なす、アスパラガス、きゅうり	9ヶ所
果 樹	—	3ヶ所 りんご、ブルーベリー、あんず	3ヶ所
計	10カ所	10カ所	20ヶ所

○ 実践組織内の合意形成

- 各実践組織では、構成員を招集して、化学肥料・化学合成農薬の使用を低減した農業生産活動の取組を一体的に行えるよう合意形成を図りました。

○ 取組技術の検討

- 農業改良普及センター、専門技術員及びJ Aが、新たな技術の導入や既存技術の改善など検討しました。
- 農業改良普及センター、J A、生産者団体が一体となって削減目標が達成できるよう、導入が可能な技術の検討を行いました。

○ 実証ほの設置による技術の実証

- 設置した実証ほにおいて、取組技術の検討に基づいて導入した技術の実証を行いました。
- 作物の生育状況や病害虫の発生状況等について検証を行いました。
- 生産者が取り組みやすい技術を検討し、資材や労力のコストと効果を検証しました。



○ 現地検討会などの開催

- 生産者を参集して実証ほの現地検討会を開催し、農業関係試験場研究員や専門技術員による現地確認により作物の生育状況や病害虫の発生状況、導入した技術の効果を確認しました。
- 現地検討の結果に基づき、必要に応じて導入する技術の改善や次年度に導入する技術の検討を行いました。
- 化学合成農薬等の削減技術導入による作物の出来栄を確認し、取組の機運醸成を図りました。



○ 組織的な実践

- 組織的に取り組んでいる団体では、現地実証ほを設置したことによって構成員自らが自園の病害虫の発生状況を把握して農薬使用量を削減するなど、組織内で意識向上がみられました。
- 実証ほの設置により、化学合成農薬等の削減技術導入による作物の出来栄を確認し、「信州の環境にやさしい農産物認証」を2団体が取得しました。

③ 認証農産物の販売支援

○ 販売支援

- 平成26年産信州の環境にやさしい農産物認証を取得した304件について、認証を取得した生産者の認定番号、認定作物名、栽培面積等を長野県ホームページにおいて公開し消費者や実需者への情報発信を行いました。
- J Aと連携して、信州の環境にやさしい農産物認証を取得した農産物のインターネット販売を開始しました。

<今後の展開方向>

- 総合的病害虫・雑草管理（IPM）の実践指標を策定するとともに解説書を作成し、農業者への周知を行います。
- 信州の環境にやさしい農産物認証制度への取組を「点」から「面」へ拡大するため、現地実証ほを平成25年度から平成27年度まで毎年度10ヵ所設置して計30ヶ所において実証します。実証した成果により、地域の生産者団体への普及拡大を図ります。
- 環境にやさしい農業技術集を作成し、農業者が実践する際の参考として活用します。
- 認証取得者の“こだわり農産物”や栽培方法を事例としてとりまとめて、消費者や実需者へ情報発信を行います。